

Aging in Place(住み慣れた地域で暮らし続ける)を実現する移行期支援 ～疾患の軌道をふまえた医療・ケアそして意思決定支援できていますか?～



2018年 7月 24日(火)
18:30-19:20 (50分)

開催場所: **公益社団法人 茨城県看護協会 内会議室**

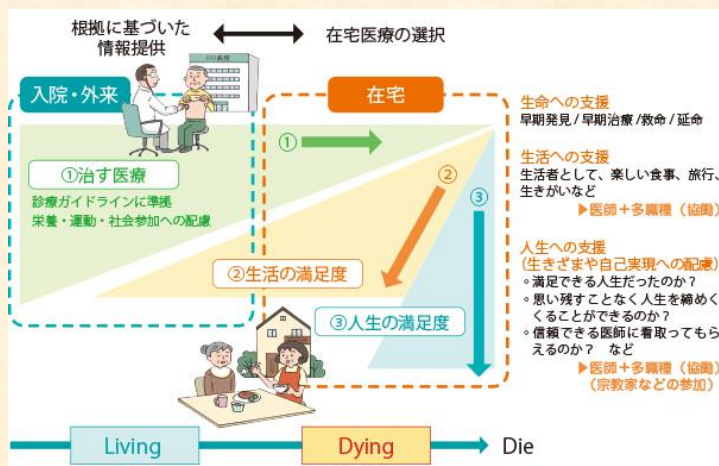
講師 **在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス 代表**

京都大学医学部人間健康科学学科非常勤講師
聖路加国際医療大学臨床教授

宇都宮 宏子 先生

【ご略歴】

1980年京都大学医療技術短期大学部看護学科卒業。
看護師を経て訪問看護師に。2002年より京都大学附属病院退院調整看護師。
2012年在宅ケア移行支援研究所を設立し、コンサルテーション活動などを行う。著書に『退院支援実践ナビ』『これからの退院支援・退院調整』『退院支援ガイドブック』ほか。



*飯島勝矢(東京大学高齢社会総合研究機構教授)作図に基づき簡略化

監修: 医療法人アスミス 理事長 太田 秀樹 先生
東京大学高齢社会総合研究機構教授 飯島 勝矢 先生

【概要】

退院支援の伝道師として全国を飛び回っておられる宇都宮宏子先生より、地域包括ケアの実現に向けた入退院支援について、ご講演いただきます。

病院医療から、暮らしの場で支える医療を実現するために、食べる事(栄養療法が必要な事例)、最期まで自分らしく生きていかに支援した事例を題材に、患者さんが生活者として、地域の多職種と共にaging in placeを叶えるヒントをご紹介します。

主催 株式会社大塚製薬工場